

ー 食・栄養看護エキスパートナーズの役割と活動 ー

私は看護学生のとときにがんの終末期の患者さんと関わり、心身共につらい中でも、食べるということが患者さんの生きる力や患者さんが亡くなった後のご家族を支えることになることを学び、食・栄養の分野に興味を持ちました。臨床に入ってから、複数の疾患を抱える患者さんに適切な栄養を提供するためには専門的な知識を学ぶ必要があると考え、日本栄養治療学会（JSP EN）の認定資格である栄養サポートチーム

（NST）専門療法士の資格を取得しました。特に興味のあったがんの分野で栄養治療専門療法士の資格を取得して活動を始め、現在は院内の食・栄養看護のエキスパートナーズとして、栄養サポートチーム、嚥下（えんげ）リハ栄養チーム、緩和ケアチーム、褥瘡（じょくそう）対策チーム、心臓リハチームなどの多職種チームに参加して、患者さんの生活を食・栄養の立場から支える看護に取り組んでいます。



栄養サポートチーム

具体的には検査データや身体計測値等から栄養アセスメントを行い、栄養量、栄養素配分を検討して栄養投与のメニューを考えること、栄養治療における合併症についての介入、患者さんやご家族の希望や社会・文化的背景、今後の生活を踏まえた栄養投与経路の提案や調整などを行っています。また院内の栄養と一緒に取り組む仲間を増やしたいと考え、当院をNST専門療法士の認定教育施設としてチームで運営し、現在、院内のNST専門療法士は15名、研修修了者は10名となりました。

看護師として食・栄養に取り組む目的の1つは患者さんの生活機能の維持です。昨今、リハビリテーション・栄養管理・口腔管理を一体的に実施することで、患者さんのADLや予後などの改善につながることが明らかになってきています。令和6年度の診療報酬改定においても、この三位一体の取り組み推進の考えが示されました。現在、所属する入退院支援センター、口腔外科医師・リハ職種も所属する院内の食・栄養に関わるチーム、食・栄養リンクナースと連携し、この三位一体の取り組みを推進しています。高齢の患者さんは入院中にADLが低下して、退院時には要介護状態になる方が少なからずいらっしゃいます。急性期病院であっても、患者さんの生活機能が維持・向上して、ご本人が望む生活をより長く送っていただく取り組みを拡げていきたいです。私たち医療者が自分自身の栄養と運動と口腔管理に興味を持って、健康な心身を保つことが何よりの学びだと思っています。ぜひ、皆さまにも三位一体の取り組みに関心を持っていただければ幸いです。